



Bangladesh の紹介と現地最新情報

日本貿易振興機構（ジェトロ）

ダッカ事務所 安藤 裕二

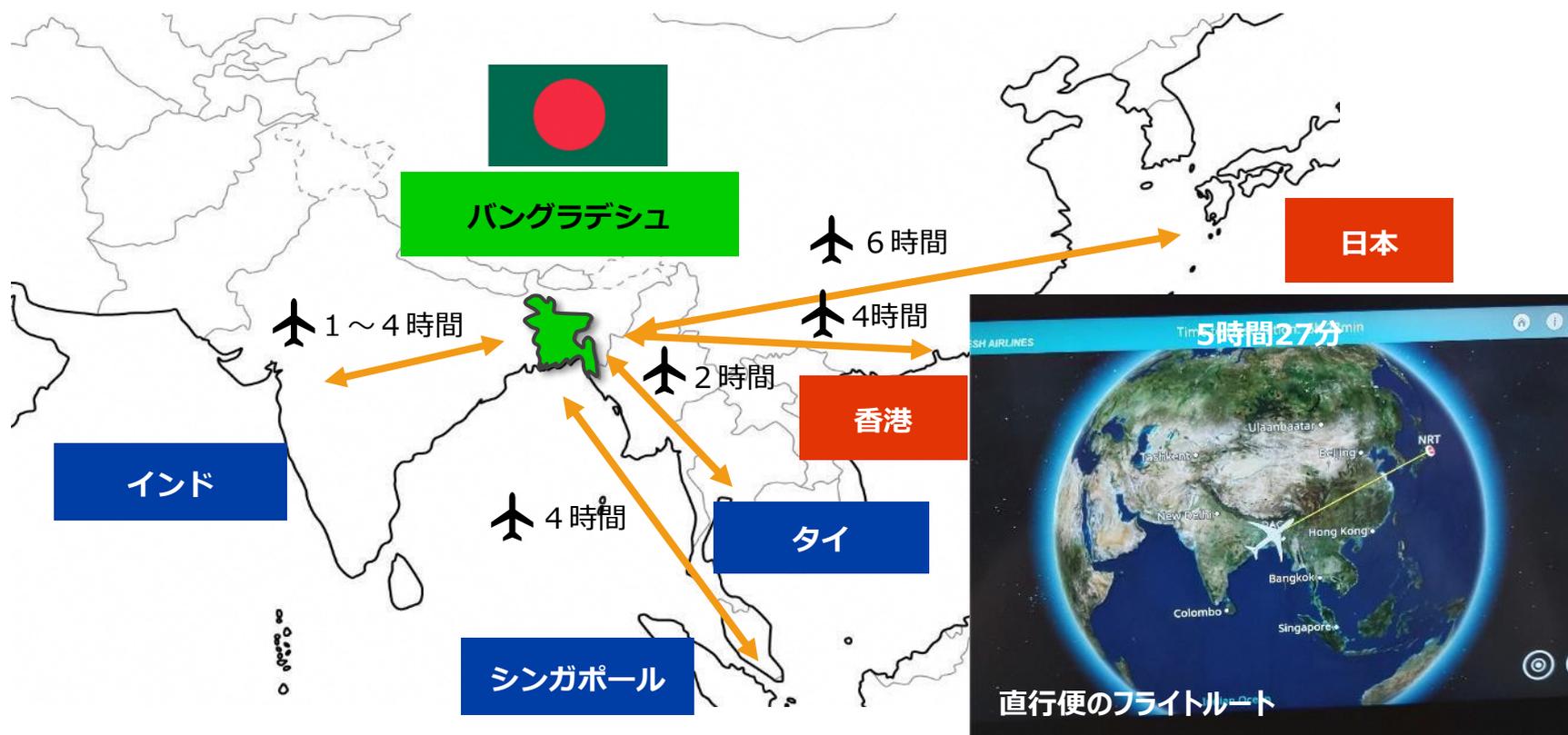
2024年10月30日



22年12月操業開始したダッカメトロ6号線
（日本工営提供）

1 | Bangladesh's Position Relationship

- ASEAN and South West Asia's hub node. A key point in the Bay of Bengal, also important in the "Open Indian Ocean Pacific".
- Japanese companies often have jurisdiction over Bangladesh from Singapore, Thailand, and India.
- **Direct flight from 23 September onwards** (Biman Bangladesh Airlines, Narita route, 6 hours (shorter than Thailand), 2 times a week)
- In April 23, the bilateral relationship was upgraded from "Comprehensive Partnership" to "Strategic Partnership".



(出所) アイコンはMicrosoft社

2 | バングラデシュの概況



- 北海道の2倍の国土に、1.7億の人口が集中。高い都市人口比率（31.5%）が今後の成長の課題
- イスラム教が国教ではあるものの、穏健なイスラム教で、ベンガル文化も重視される
- **週末は金土**。独立、宗教、ベンガル文化などに関わる日は祝日となる

面積	14万7,570km ² （北海道の約1.9倍）
人口	1億7,159万人（2023/24年度）
州都	ダッカ（ベンガル語：ダカ）
政治	暫定政権（ムハンマド・ユヌス首席顧問）
言語	ベンガル語（国語）
民族	ベンガル人
宗教	イスラム教91%、ヒンドゥー教8.0%、仏教0.6%、キリスト教0.3%
気候	熱帯性気候（雨季、乾季、12月～1月は短い冬季も）
邦人	1,122人
GDP	4,602億ドル（2022年、34番） ≪シンガポール
予算	7兆970億タカ（2024/25年度）

国内都市人口上位5都市

1	ダッカ	約2,074万人
2	チョットグラム	約1,118万人
3	ラジシャヒ	約484万人
4	クルナ	約431万人
5	ロングプール	約386万人
参考	ムンバイ	約1,840万人
	デリー	約1,635万人
	コルカタ	約1,404万人



ダッカの交通渋滞

3 | バングラデシュの主要都市

■ 1971年独立。バングラデシュ = 「ベンガル語の国」。2022年（2月10日）、日本-バングラデシュの外交関係樹立50周年。独立以降、日本が支援を継続し、日本製品への憧れなどから**親日国**

ダッカ

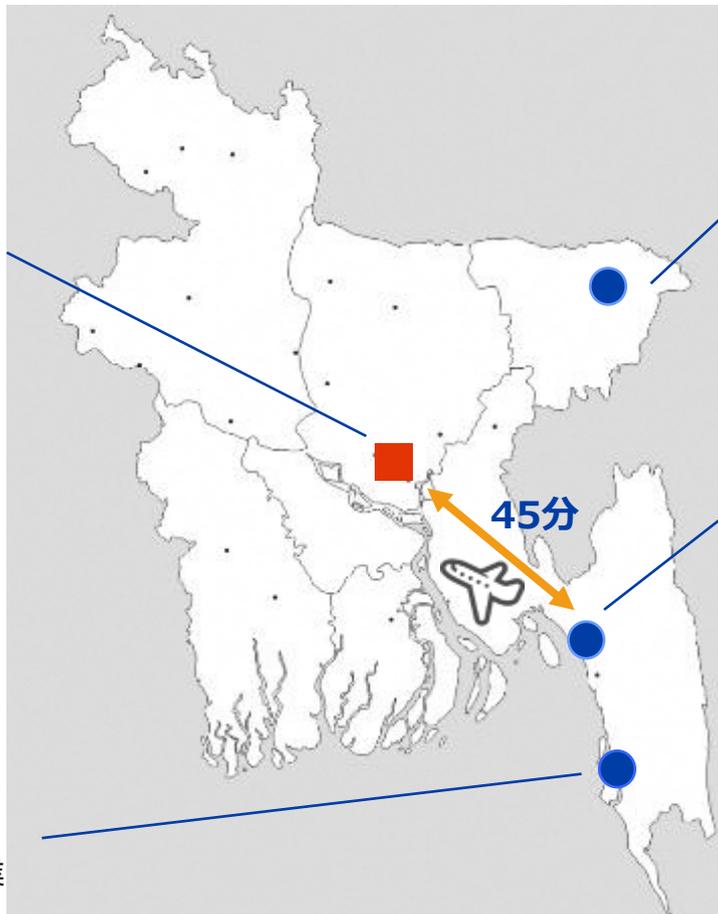
人口2,000万人の首都。本社機能を有する企業が集中。首都郊外に行くと、工業地帯も立地し、都市機能が一極集中するため、ビジネスもダッカにフォーカス。日本政府・JICAの支援により、インフラ開発が急速に進行。



22年12月に開業したダッカメトロ6号線

マタバリ

日本政府・JICAの支援により、**産業・港湾・エネルギーハブ**として開発中。深海港が開発されており、2027年に操業開始予定。日本企業が開発に従事。



シレット

バングラデシュ国内ではリゾートエリア。科学技術分野で国内最大規模の**シャージャラル科学技術大学 (SUST)** が立地。インド北東州への拠点。イギリスへの移住者が多いエリア。

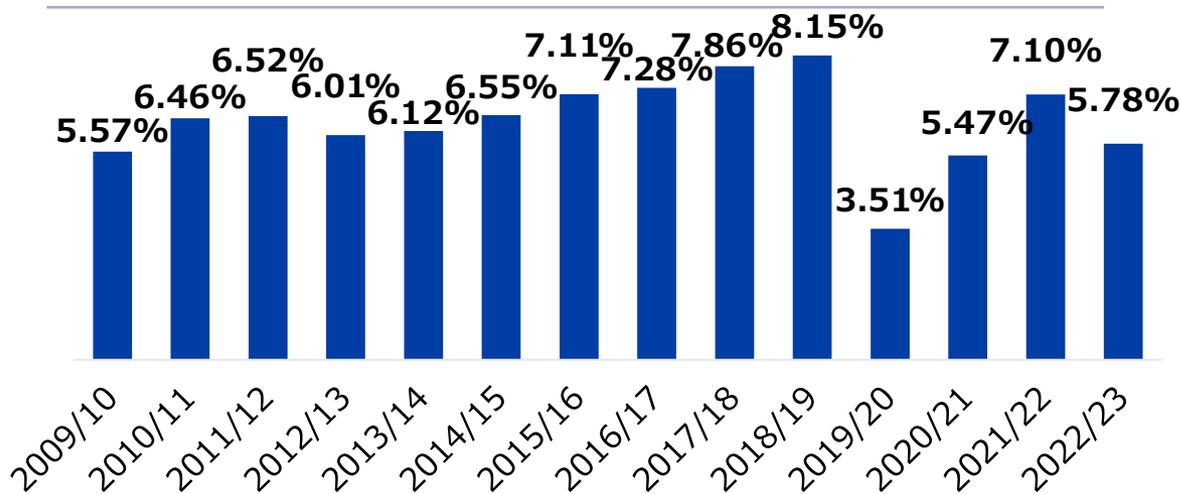
チョットグラム (チッタゴン)

国内第二の商業都市。国内最大の港湾を有し、輸出入の95%はチョットグラム港拠点。年間取扱貨物320万TEU。国内最初の輸出加工区 (EPZ) がチョットグラムで操業、

4 | バングラデシュ経済動向

- 新型コロナ禍においても高い経済成長。主に製造業、内需、政府投資が経済を下支え
 - **1人当たりGDP2,675ドル**〔≒インド、日本（1971年）、中国（2007年）、タイ（2004年）、インドネシア（2009年）、ベトナム（2014年）〕
 - 2023/24年度は5.82%成長見込。2024/25年度は6.75%成長目標
 - 国連は**2026年、バングラデシュの後発開発途上国（LDC）からの卒業予定**（GSP対象外）
- ⇒**日本・バングラデシュEPA交渉開始（2024年5月）**
- ウクライナ戦争以降、**エネルギー・食料品の価格が高騰し輸入急増**。また、**米ドル金利の上昇**により外貨準備高は直近2年で半減。輸入抑制、計画停電などで198億ドル（24年9月末時点、**輸入3か月相当**）。**1ドル=120タカ**を限度にクローリングペッグ制度を導入。

過去10年の経済成長率



(出所) バングラデシュ統計局

主要産業は縫製業

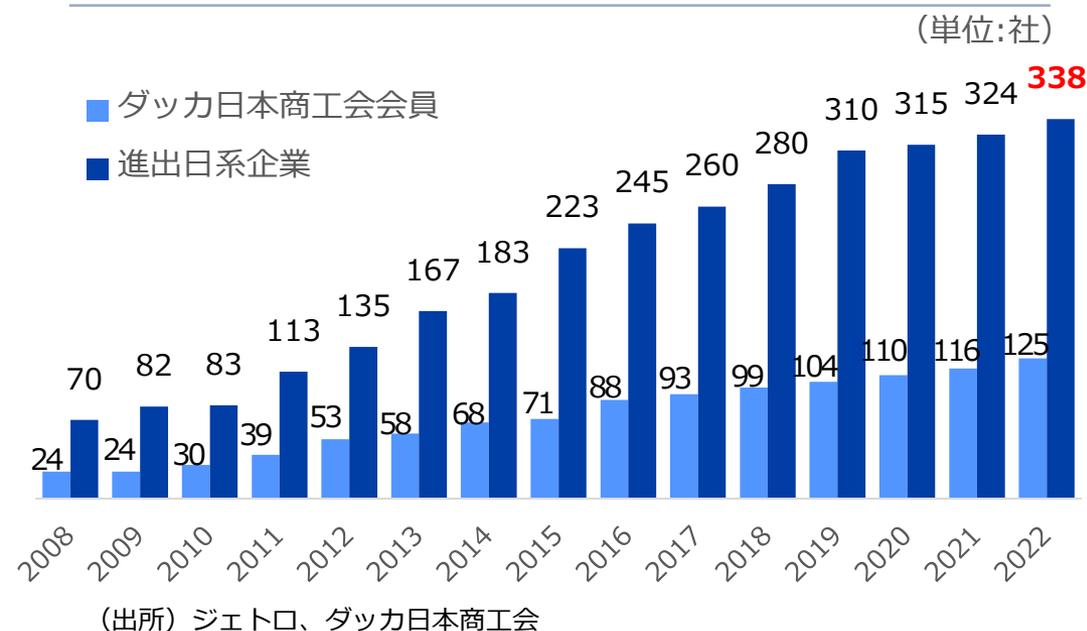


(写真) キャットガーメント提供

5 | 日系企業の動向と今後の展望

- 日系企業は338社進出、ダッカ日本商工会会員企業は146社（2024年9月時点）
- 繊維業、軽工業などの製造輸出拠点として企業の進出が多い
- 繊維業ではChina+1、**サプライチェーン多角化**の流れが進む
- 直近は国内のインフラプロジェクトの受注を目指す**建設業を中心とした日系企業の進出が相次ぐ**
- **内需を目指す日系企業、IT企業からの注目も増加（オフショア、開発拠点、人材採用など）**
- 住友商事がバングラデシュ経済特区庁（BEZA）と開発する**「バングラデシュ経済特区」（BSEZ）**（ナラヤンゴンジ・アライハザール、ダッカから車で1時間）が2022年12月に操業開始

進出日系企業数は過去10年で約3倍増



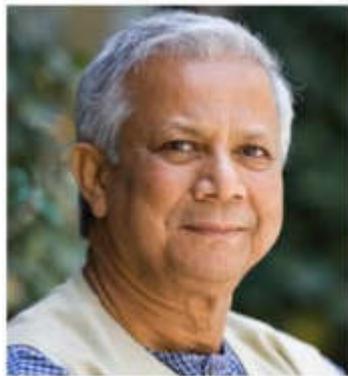
バングラデシュ経済特区（BSEZ）が
22年12月、操業開始



(写真) 住友商事提供

6 | バングラデシュ暫定政権と現地情勢

- 8月8日、ムハンマド・ユヌス博士を首席顧問とする暫定政権が発足。治安は安定。
- 日本政府は8月9日、暫定政権への支援を表明。
- 暫定政権のメンバー選定に当たり、ハシナ首相辞任を主導した学生コーディネーターが意見を表明、2名の学生コーディネーターも顧問（大臣に相当）として参画。顧問は計22名で構成（8月28日時点、男性18名、女性4名）。エコノミスト、元官僚、社会活動家、弁護士、少数民族、宗教関係、フリーダムファイターなど多岐にわたり、適材適所な人選重視の傾向。
- ノースサウス大学・政策ガバナンス研究所（SIPG）が9月に実施した調査（回答者1,869名）では、回答者の97%が暫定政権に自信を有すると回答。また、暫定政権の期間については「2年以内」（53%）、「3年以上」（47%）と回答。
- 重点事項は、法と秩序の回復、治安の安定化、汚職対策、経済・金融政策（特にインフレ対策）。
- 今後は経済政策の実施、公平・公正な選挙の実施に向けて、各分野において必要な改革の項目を検討するための委員会を設置。年内までに改革項目が出揃い、各政党と議論の上で、実行に移していくと見込まれる。選挙のスケジュールは、改革実施に必要な年月を踏まえて決定見込み。



7 | ビジネス環境上のメリット（上位10項目、複数回答）

- バングラデシュでのビジネス環境上のメリットは、「市場規模」、「人件費」、「人材採用の容易さ」で上位に

順位	回答項目	全体 (2,267)	製造業 (1,026)	非製造業 (1,241)	上位3カ国		
1	市場の成長性	60.0	57.1	62.4	インド 88.3	インドネシア 78.5	パキスタン 75.0
2	現在の市場規模	42.1	39.9	44.0	インド 71.6	インドネシア 61.9	バングラデシュ 53.5
3	言語・コミュニケーションの容易さ	41.6	34.1	47.8	スリランカ 77.8	フィリピン 77.4	マレーシア 70.8
4	駐在員の生活環境	37.8	36.1	39.2	マレーシア 55.0	シンガポール 54.4	オーストラリア 48.9
5	自社が求める人材の雇いやすさ、従業員の雇いやすさ（一般ワーカー、一般スタッフ・事務員等）	36.0	38.1	34.2	フィリピン 56.5	バングラデシュ 46.6	パキスタン 43.8
6	政治・社会情勢	29.8	25.3	33.5	シンガポール 59.0	オーストラリア 52.1	ニュージーランド 43.8
7	税制優遇の整備状況 (法人税、物品税、輸出入関税など)	28.9	31.4	26.8	シンガポール 52.8	ニュージーランド 37.5	ラオス 36.4
8	法制度の整備状況（外資優遇・規制など）	28.2	27.1	29.2	シンガポール 53.7	ニュージーランド 46.9	タイ 34.5
9	人件費の水準	24.6	27.7	22.1	バングラデシュ 51.7	ミャンマー 48.8	フィリピン 48.4
10	自社が求める人材の雇いやすさ、従業員の雇いやすさ（専門職・技術職等）	22.9	20.3	25.0	パキスタン 34.4	スリランカ 33.3	バングラデシュ 29.3

(注1) 単位は%、（ ）内は有効回答数。

(注2) 対象地域は、ASEAN、南西アジア、オセアニア。

(出所) ジェトロ「海外進出日系企業実態調査」（2022年度）

8 | ビジネス環境上のメリット (南西アジア、上位5項目、複数回答)

(%)

バングラデシュ (58)

1	市場の成長性	70.7
2	現在の市場規模	53.5
3	人件費の水準	51.7
4	自社が求める人材の雇いやすさ、従業員の雇いやすさ (一般ワーカー、一般スタッフ・事務員等)	46.6
5	言語・コミュニケーションの容易さ	44.8

インド (222)

1	市場の成長性	88.3
2	現在の市場規模	71.6
3	言語・コミュニケーションの容易さ	42.8
4	人件費の水準	33.3
5	自社が求める人材の雇いやすさ、従業員の雇いやすさ (一般ワーカー、一般スタッフ・事務員等)	31.5

パキスタン (32)

1	市場の成長性	75.0
2	言語・コミュニケーションの容易さ	53.1
3	自社が求める人材の雇いやすさ、従業員の雇いやすさ (一般ワーカー、一般スタッフ・事務員等)	43.8
4	自社が求める人材の雇いやすさ (マネージャー・管理職等)	40.6
5	現在の市場規模	37.5
5	人件費の水準	37.5
5	離職率の水準	37.5

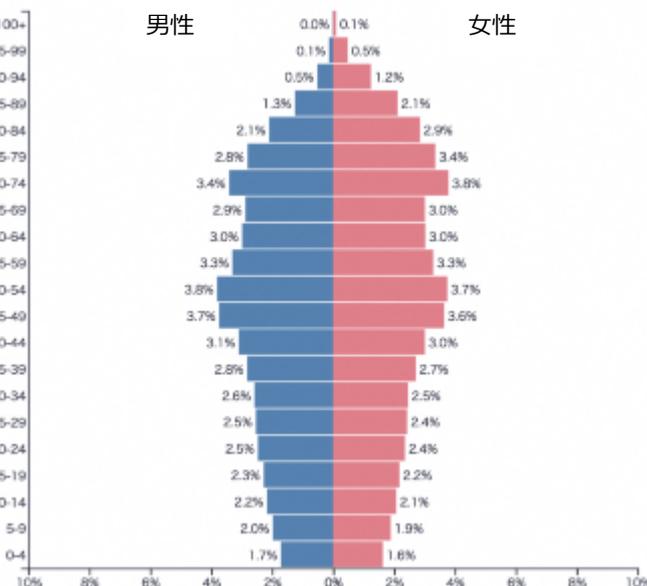
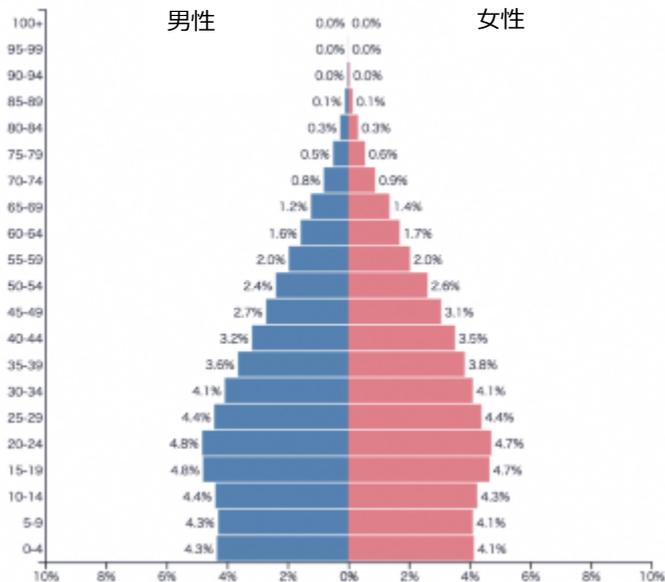
スリランカ (9)

1	言語・コミュニケーションの容易さ	77.8
2	自社が求める人材の雇いやすさ、従業員の雇いやすさ (一般ワーカー、一般スタッフ・事務員等)	33.3
2	自社が求める人材の雇いやすさ、従業員の雇いやすさ (専門職・技術職等)	33.3
4	人件費の水準	22.2
4	通信インフラの整備状況	22.2

(注) () 内は有効回答数

9 | 豊富なバングラデシュ人材

- バングラデシュは人口の約25%が14歳以下であり、少子高齢化の進む日本と相互補完しうる。
- 大学卒レベルであれば英語が非常に堪能で、IT人材を多く輩出。欧米志向が高い。
- 海外労働者は1000万人いるとも言われ、郷里送金がバングラデシュ経済に大きく貢献。
- 中東やASEANへの労働者の輩出源。建設、農業、ドライバー、家事補助など多く従事する。
- イスラム教が国教だが、非常に穏健なイスラム教徒が多い。
- 日本のことをこよなく愛し、尊敬してくれている。



(出所) PopulationPyramid.net (2023)

10 | 有力な大学の存在

- 国立大学は少数精鋭、私立大学はマーケットに合わせてIT関連の定員を大幅に増やしている。
- 毎年2万人のIT人材が輩出する一方、国内での受け皿は1万人以下。
- トップ大学（BUET、ダッカ大学）などでは給与が高く、英語で仕事ができる欧米企業への就職を希望することが多い。

大学名	所在地（管区）	国公立・私立
ラジシャヒ大学（University of Rajshahi）	ラジシャヒ	国公立
BRAC大学（BRAC University）	ダッカ	私立
バングラデシュ工科大学（Bangladesh University of Engineering and Technology (BUET)）	ダッカ	公立
ダフォディル国際大学（Daffodil International University）	ダッカ	私立
ダッカ大学（University of Dhaka）	ダッカ	国公立
イースト・ウエスト大学（East West University）	ダッカ	私立
ジャハングルナゴール大学（Jahangirnagar University）	ダッカ	国公立
ジョソール科学技術大学 （Jashore University of Science and Technology）	クルナ	国公立
イスラム工科大学（Islamic University of Technology）	ダッカ	私立
ノース・サウス大学（North South University）	ダッカ	私立
アメリカン国際大学（American International University）	ダッカ	私立
チッタゴン工科大学（Chittagong University of Engineering and Technology (CUET)）	チョットグラム	国公立

11 | IT関連専攻の大卒者の給与水準・雇用形態（文献調査）

- 新卒者のデジタル人材の平均月給は**3万8,000タカ**（約5万円、1タカ=約1.3円）である。
- デジタル人材のうち、ソフトウェア・エンジニアがやや高く、約4万タカが平均である。
- バングラデシュの大卒者の契約形態としては、長期雇用契約が一般的（フリーランスは除く）である。

ジェンダー・雇用種別ごとの新卒給与（単位：タカ）

雇用種別	男性		女性		全体	
	平均（中央値）	標準偏差	平均（中央値）	標準偏差	平均（中央値）	標準偏差
雇用	39,513 (40,000)	20,185 (n=703)	34,993 (30,000)	19,214 (n=136)	38,780 (38,000)	20,089 (n=839)
個人事業主	52,530 (20,000)	91,777 (n=33)	34,250 (14,500)	44,169 (n=4)	50,554 (20,000)	87,652 (n=37)

職種・雇用種別ごとの新卒給与（単位：タカ）

職種	雇用		個人事業主	
	平均（中央値）	標準偏差	平均（中央値）	標準偏差
ITサービス	38,622 (37,000)	19,413 (n=548)	37,891 (19,000)	44,081 (n=32)
ソフトウェア	39,772 (40,000)	19,327 (n=457)	42,040 (20,000)	48,098 (n=25)
ITコンサル	38,364 (38,000)	18,356 (n=33)	32,250 (32,250)	39,244 (n=2)
ネットワークキング	26,448 (20,000)	17,691 (n=29)	22,000 (19,000)	16,713 (n=4)
その他ITサービス	32,959 (30,000)	19,305 (n=29)	9,000 (9,000)	N/A (n=1)
教育業界	40,237 (40,000)	20,882 (n=169)	—	—
金融業	38,986 (35,000)	17,126 (n=37)	—	—
製造業	34,346 (27,500)	31,319 (n=26)	—	—
その他	37,898 (35,000)	19,811 (n=59)	131,600 (20,000)	211,170 (n=5)

12 | バングラデシュのデジタル人材の特徴

バングラデシュ人材の強み

- 親日感情（二国間援助で日本が第1位。国内でのトヨタの自動車シェアは約8割）が非常に強い。
- 他国と比べて廉価な人件費。
- コンピューター関連専攻学生の人材規模が大きく、海外への就職願望が強い。
- 高い英語力。高い技術力・プログラミング力。
- フリーランサー（全般）は、バングラデシュ国内に60万人いる。フリーランサー（全般）の発注先ランキング数で世界8位（Payoneer, 2023）。
- フロントエンド系よりバックエンド系人材が豊富。バックエンド・エンジニアの海外企業との豊富な経験。
- 素直で好奇心があり、向上心も高い。

バングラデシュ人材の弱み

- コミュニケーションや時間管理を中心としたソフトスキルに課題があると認識している日本企業は多く、オフショア開発の場合はブリッジ・エンジニアなどの中間人材・中間会社によるサポートが重要となる。
- プロジェクト・マネジメント力について、時間・スケジュール管理についての課題が多く、マネジメント層の育成が、今後の課題である。
- フロントエンド・エンジニアの海外企業との経験が浅い。フロントエンドの業務（Web画面やインターフェース）は、発注者と受注者の文化背景や感覚に基づく認識差異に基づくミスコミュニケーションや誤解が起きやすく、フリーランスの業務としてはバックエンドが多くなる傾向がある。
- できないことでも「できる」と言ってしまう文化があり、進捗管理は重要である。

13 | 訪問時の注意事項について

- **VOA (アライバルビザ) の発行再開。**ただし、取得に要する時間が予測が困難なため、事前取得をするのがベスト（15分で取得できることもあれば、3時間かかることも）
(※) VOAを取得時に入国審査も併せて行われるため、VOA取得後は入国審査デスクに並ばないように注意
- ダッカのホテルは高めの場所が多い。税込100ドルでも大きな期待はできない
- お酒は街中では入手困難（5スターホテルでローカルビール（ハンター）が1缶1,500円程度）。お酒の持込が可能なレストランに自分で持参するのが一般的（持込料はかからない）
- **デング熱の懸念が増大**、蚊に刺されない対策が重要
- 交通渋滞（夕方時間帯、特に木曜日は要注意）が激しいため、移動には時間の余裕を



14 | 生活環境は想像より全然良い

- サービス産業の拡大：日に日に増える外食の選択肢（ラーメンも寿司も火鍋も）
- スーパーの棚のラインナップは増えるが生活コストは高い（輸入依存経済）
- 外務省「危険レベル2」（不要不急の渡航自粛）。リスクアセスメントが重要。
- 家族帯同も増加（日本人学校の生徒数は過去最高の45名）、狭すぎず広すぎない、助け合える日本人コミュニティ、韓国人などとも近い。親切でお節介なバングラ人にも日々助けられる



ご清聴ありがとうございました

日本貿易振興機構（ジェトロ）

ダッカ事務所



+880-2-5505-2239
+880-2-5505-2240



BAD@jetro.go.jp



I-K Tower (3rd Fl.) Plot # Cen(A)-2,
North Ave. Gulshan-2, Dhaka-1212,
BANGLADESH

世界のビジネス関連情報を毎日掲載！

『ビジネス短信』

閲覧無料



<https://www.jetro.go.jp/biznews/>

バングラデシュの情報を配信！

ジェトロダッカ
facebookページ



<https://www.facebook.com/jetrodhaka.bd/>

■ ご注意

本日の講演内容、資料は情報提供を目的に作成したものです。主催機関および講師は資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否はお客様のご判断で行ってください。また、万一不利益を被る事態が生じても主催機関及び講師は責任を負うことができませんのでご了承ください。